

平成20年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会
第5回地域検討会（山形県） 議事概要（案）

日時：平成20年11月18日（火）13:30～16:30
場所：酒田市公益研修センター中研修室 2
（東北公益文科大学地域共創センター）

議 事

開会（13:30）

- 1．開会の辞
- 2．資料の確認
- 3．議事

第4回地域検討会議事概要及び指摘事項について〔資料1、資料2〕

飛島西海岸・赤川河口部における調査結果〔資料3〕

飛島西海岸・赤川河口部における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見〔資料3〕

飛島西海岸・赤川河口部における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について〔資料3〕

質疑・意見交換

- 4．その他連絡事項

閉会（16:30）

配布資料

資料 1 第 4 回地域検討会（山形県）議事概要（案）

資料 2 第 4 回地域検討会（山形県）の指摘事項に対する対応（案）

資料 3 地域検討会報告書(案)

第 章 飛島西海岸（山形県）における調査結果

第 章 飛島西海岸における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見

第 章 赤川河口部（山形県）における調査結果

第 章 赤川河口部における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見

第 章 飛島西海岸・赤川河口部における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について

第 章 資料編

参考資料 1 今後の調査スケジュール（案）

平成20年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（山形県）

第5回地域検討会 出席者名簿

検討員（五十音順、敬称略）	
浅野 目和 明	酒田河川国道事務所 河川管理課 専門職
荒川 敏 男	酒田市 環境衛生課 清掃対策主査
金子 博	特定非営利活動法人 パートナーシップオフィス 理事
黒井 晃	赤川漁業協同組合 組合長
呉 尚 浩	東北公益文科大学 准教授
小谷 卓	鶴岡工業高等専門学校物質工学科 学科長教授
小松 弘 幸	山形県庄内総合支庁 地域支援課 地域振興主査
佐々木 司	酒田海上保安部 警備救難課 専門官
佐藤 光 雄	酒田市 十坂コミュニティ振興会 会長
佐藤 峰 夫	酒田港湾事務所 工務課長
荘 司 忠 和	酒田市 まちづくり推進課 地域づくり主査 欠席
白澤 真 一	山形県庄内総合支庁 河川砂防課 技術主査
菅原 善 子	遊佐町 地域生活課 生活環境係長
鈴木 英 昭	鶴岡市 リサイクル推進課 係長
鈴木 雅 昭	全国農業協同組合連合会山形県本部 庄内園芸課 調査役
高橋 茂 喜	山形県漁業協同組合 漁政課 課長 欠席
武田 幸 子	山形県庄内総合支庁 水産課 主事
富樫 真 二	山形県庄内総合支庁 港湾事務所 港政主査
長沼 庸 司	山形県庄内総合支庁 環境課 リサイクル推進専門員
西村 和 夫	酒田市 飛島コミュニティ振興会 会長 欠席
疋田 昌 広	鶴岡市 地域振興課 主事
前川 勝 朗	山形大学農学部生物環境学科 教授
村上 龍 男	鶴岡市立加茂水族館 館長
村上 秀 俊	酒田市 総務課 行政主査兼行政係長
八柳 宏 栄	特定非営利活動法人 庄内海浜美化ボランティア 代表理事長
余語 俊 彦	酒田市 浜中自治会 会長
オブザーバー 特定非営利活動法人 パートナーシップオフィス、山形県庄内総合支庁 環境課、 株式会社 みなと、株式会社 渡部砂利工業所	
環境省 小沼 信 之 地球環境局 環境保全対策課 係長 倉谷 英 和 東北地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 課長 菅原 崇 臣 東北地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 第2係長	
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株) 常谷 典 久 HSEコンサルティングユニット 井川 周 三 地球環境ユニット	

議題1 前回議事概要及び指摘事項について〔資料1、資料2〕

質問・コメント等は特になし。

議題2、3 飛島西海岸・赤川河口部における調査結果〔資料3〕

- 1) 全体計画に対して、最終的な報告書の中に、どこまで目的に対してやれたのか、やれなかったのかを整理して欲しい。
一覧表などでまとめる。
- 2) 植生内調査を2箇所で行っているが、合計のデータが欲しい。
合計値を表示する。
- 3) ゴミの比重が大きすぎるように思う。
データを見直すが、海藻を含めた比重であること、かさ比重と実比重の違いがあると思われる。
- 4) 波高データの数字だけでは分かりづらいので、ニュー飛島の欠航の日数で調べて欲しい。
次回までに欠航日を取りまとめていきたい。

議題4 飛島西海岸・赤川河口部における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について〔資料3〕

- 1) 赤川漁協は赤川鮭生産組合と一緒に、サケのウライを設置し、9月1日から1月中旬まで流木を下流には流していない。
- 2) 赤川漁協としては、事前に漁協の事務局へ連絡があれば、協議して、ボランティア活動にできるだけ参加したいと思う。
- 3) 報告書にもあるように、外国からの漂着物はあまりなく地元が多い。酒田市、鶴岡市も挙げてゴミを捨てないように注意していかなければならない。
- 4) 発生抑制対策で幾つか記載されているが、一般論的な項目になりがちである。少し具体的な提案をこの場で取りまとめられないか。
ワーキングを含めて具体案を出して行きたい。
- 5) 災害等廃棄物処理事業費補助金の補助率が2分の1というのは、民間の助成金等を使っている場合はどうなるのか。
民間の方からの支援として事業実施分があった場合には、その部分を除いて、その半額を国が補助する仕組みになる。
- 6) 漂着物は地域住民や近くの人が集まって回収し、集まったら、お金で全部処理する内容なのでリサイクルの観点も入れて欲しい。
流木のチップ化などは報告書に記載している。
- 7) 飛島が日本海に浮かぶ離島であるため、外国や日本の南からゴミが流れてくるという意味からいうと、法整備を含めて環境省レベルで別途考えるレベルのものがあるのではないか。
地域として具体的に何を求めているのか、要望として報告書にまとめることは可能ではないか。
- 8) 美化意識という表現は、注意が必要である。ここは、海洋環境への関心とか不法投棄ゴミの問題の啓発であって美化の問題ではない。これまで長らく美化という言葉に隠れて問題の本質に迫れなかった部分がある。地球環境問題の一つとしてのゴミ問題と書く必要がある。
検討して修正していきたい。
- 9) 補助金等もあるが財政上、海岸管理者がやらなければならないことが多い。山形県は、今まで

NPO、市町村、管理者が話し合いながら、うまくやってきた実績があり、プラットフォームも全国に先駆けて立ち上がったような状況である。法体系が明確でないと予算がつかないような状態になっているので、補助率の拡充などを考えていただきたい。

- 10) 県が取り組むべき内容は、海岸管理者として法令上の責務がある。別に、ボランティア、地域の方々と連携しながら取り組んでいくという、法的以外の部分というのもある。この検討会では、今後、県が中心となって、それぞれ役割を協同して担っていく方向性が確認された。
- 11) 県は、次回の検討会までに、一つでも具体的な方策を検討していただきたい。